

# UTA会 だより

## ■幹事長の挨拶

寒い毎日が続きます。十二月のセミナーから一カ月が過ぎました。次回のUTA会まで、五カ月余りの月日があります。いかがお過ごしでしょうか。私は今頃になってやっと、できる限り瞑想をするよう心掛ける毎日です。私も大病しましたので、



第5回UTA会風景

今、命が未だあり、こうして学べる時間があることが有難いです。残された時間、しっかりと学んでいこうと自分に言っています。私ごとで済みません。

ところで、十二月のUTA会で見られたと思いますが、愛のTシャツを田池先生が着ていらっしゃるのを見て、私に、あのTシャツをどこで買えるのですかとか、売って貰えるのですかと聞いてこられた方がありました。幹事さん達も同じことを参加者の方から言われたということでしたので、幹事さん方と相談した結果、作って皆様にお届けしようということになりました。私は、急にうれしくなりました。

そこで欲しい方には申し込みを頂いて、その数量だけ製作してご希望に添いたいと、すでにホームページで告知されています。皆で一緒にTシャツを着て参加できることが楽しみです。そして、二月は次年度のUTA会会員の申し込み月です。合わせて、よろしくお願いいたします。

久保明子

機関誌「UTA会だより」は五月、十一月の年二回の発行を予定していますが、会員の皆様から体験談等が寄せられていますので、早めに読んでいただけたらと思います。今回発行させていただきまし。今後も体験談等が多く寄せられた場合は、二月、八月にも発行したいと考えています。

# UTA会風景

## ■第五回UTA会の開催状況

二〇一〇年十二月十九日から二十一日まで琵琶湖グランドホテルで第五回UTA会が開催されました。年末の多忙な時期ですが、約七百五十名の会員が参加されました。

今回は事前にホームページで田池先生、塩川さん等の六人以外の方は、抽選で席を選んでいただくよう告知し、皆様のご協力を得て円滑に実施されました。また、今後一年間の学びの方針と「死後の自分との交信」の体験談が資料として配られました。田池先生、塩川さん、スタッフ等の皆さんが△愛▽のワンポイントのTシャツを着用して参加しました。

初日は久保幹事長の挨拶と進行で始まり、田池先生がご挨拶で「あと一年、五回のテーマは△愛▽です。現代に溢れている愛は偽りの愛です。私が言う△愛▽は意識を基盤とする△愛▽です。具体的には資料にある通り△目覚めよう、目覚めて自分が意識・愛だと信じられる人生を生きたいこう▽で学んでいきたいと思えます。そのためには、まず本をしつかり読んで心を真剣に見て△最後は瞑想です▽。瞑想の最後は△田池留吉・アルバートの世界にびしゃっと合わせる▽、その波動・エネルギーが本当の△愛▽なんです。そして△死後の自分と語る▽ですね。体験談の人達も、その後どんな変わってきていますよ。皆さんもがんばってください」などと話されました。

休憩の後、「田池留吉・アルバートに心を合わせる」実践ということ、先生が任意で選ばれた三十名の中から、まず十名が呼ばれました。瞑想の後、塩川さんが出られて、そのうち五名が波動の勉強に指名されました。

続いて、あらかじめ配られていた「波動の勉強申込書」の申し込みに従い、夕方まで三回、各回十名で三十名が出られ、瞑想の後、塩川さんがその都度五名を選んで波動の勉強が繰り返されました。勉強中のコメントで「肉はゼロ歳に戻れませんが、意識は過去にも未来にも行けるんですよ」「瞑想は頭の回転がゆっくりゆっくり回ります」「今が変わると死後が変わる。死後を変えると今が変わる」などと話されました。途中で一度指さしの闇出し現象が行われ

ました。初日最後は、恒例の「ふるさと」を歌って終了しました。

二日目は午前中は瞑想・親睦の時間ということで、各自、会場やその他の場所でそれぞれ過ごされました。

午後から始まった波動の勉強では、早速、十名が選ばれ瞑想に入りました。塩川さんの波動の勉強の前に先生が「漏れた五名の方もその心を見るんですよ。そういう勉強です。全部自分です。心を見て分かってくれば恐ろしい心、闇がどんどん出てきます。それが喜びなんですよ。それを皆さんなぜ隠すんですか。それが人類の歴史ですよ。二兎を追うのは矛盾なんです。意識の世界はシンプル、単純です」などと話され、五名が波動の勉強を受けました。その後、夕方まで三組で三十名、各組五

名の計十五名の方が波動の勉強をされました。それぞれの波動の勉強でのコメントで「瞑想は静かにやるのは限りませんよ」「皆さんは一番良い環境へ親Vを選んでるんです」「母親の反省を命がけでやるんですよ。それが本当の親孝行です」「本物は飾りません」「自分のことは自分でせよです」「金を信じるから愛を失っていくんです」「私がなぜ大阪に生まれたか。学びが進めば自然に分かります」「私は皆さんの波動しか感じない。肉はどうでもいいんです」などと話されました。最後は「ふるさと」で二日目が終わりました。

三日目、波動の勉強に先立ち、先生が「二日間の要点をおさらいしましょう。まずへ心を見るVそのために母親の反省とゼロ歳の瞑想ですね、

そして、へお母さんの温もりVを感じ始める。同時にへ闇が出てくるV。どんどん大きな闇が出てくる。その闇をへあなたの温もりVで包み込む。へ闇が喜びに変わるVなんですよ。学びの最後は瞑想でへ田池留吉・アルバートに合わせるVですね。そしてへ自分の死後と語るVをしつかり実践して五月に参加してください」と語られて、波動の勉強に入りました。三組で十名ずつ選ばれ五名ずつがメッセージを受けました。最後は時間の関係で五名が選ばれ、二名が指名されました。十一時半に休憩の後、瞑想が行われ、恒例の「ふるさと」合唱で今回の日程が全て無事に終了しました。午後は自由時間でしたが、二時頃には、皆さん三々五々散会されました。

## 会員からのお便り

このコーナーは、皆様とUTA会を繋ぐページです。皆様の体験談や手記、ご意見などを、お気軽にお寄せください！

### ■体験談&手記

▼この学びに出会って

和歌山県 畑 美了

私がこの学びに初めて出会ったのは、小学五年生の頃でした。当時私は登校拒否をし始めた頃で、母は何とか私を学校に行かせようと必死でした。

私が登校拒否になったきっかけは、学校の行事の一つで、小学五年生になると自然教室という二泊三日の合宿があり、そこで先生に怒られたのが原因でした。今ではどんな事

で怒られたのかも覚えていない程、些細な事だったけれど、その時私はお母さんと初めて離れた事への不安と寂しさでいっぱいだったので、怒られた事で異常に不安と恐怖、寂しさが吹き出したのを覚えています。自然教室から帰った私は、それから学校に行けず、原因を作った先生は謝ってくれましたが、行きませんでした。

でも、学校に行かない私、行けない私を周りは許すはずがありませんでした。私は精神科に通わされたり、お祓いを受けたり、私が覚えているだけでも沢山の他力信仰をしています。私はますますそんな事で行くものか、行けるものかという思いでした。

そんな時、初めて「こんな学びがあるから、一緒に行かない？」と母

の妹に誘われ、母と私はこの学びのセミナーに参加しました。この学びは、母にとつて私を何とか学校に行かせようとする他力信仰の中の一つでした。

その頃の記憶はあまりありませんが、初めて田池先生と出会い、私がチャネリングを受ける前に、田池先生は私の母に向かつて、「いい子じゃないですか」とさらっと言った一言の嬉しさが胸に響いたのを、今でも忘れられません。

学校に行けない事で、やはり私も自分自身を責めていました。周りの他力信仰への頑張りや、私が学校に行けば終わる事はわかっていただけで、なぜか行けませんでした。学校に行く方がどれだけ楽か。でも、その楽な道を選択できない自分が情けなかつた。でも、田池先生の一言で

全て救われたような気がしました。今までも「いい子だね」と言われた事はあつたけれど、全然次元の違う言葉のように感じ、不思議でした。

その後、徐々に母は変わっていき、ました。私の精神科通院はなくなり、お祓い等の他力信仰はしなくなり、ました。その代わり、この学びのセミナーに通うようになりました。何度か私も母に付いて宿泊もしたけれど、その頃の私はまだ幼くて退屈でした。そして次第に母だけで行くようになりました。

一時、別の宗教にはまり出したのかと思つたけれど、なぜかそう思うたび、セミナーで私もあのこみ上げる嬉しさに触れた経験があるので、「悪い所でもないし、様子を見よう」という思いになり、しばらく私は学びから離れました。

その間、約五年間という長い登校拒否生活にピリオドを打ち、なんとか義務教育を卒業し、高校は夜間の定時制に通い、必死で勉強し、看護学校に進みました。そして、看護師になり病院で勤務するようになりました。不思議と登校拒否をした経験はマイナスにはならず、必要な時期に私を支えてくれる人達が現れ、色んな人達のお陰で私は手に職まで持つことができ、生きていく術すべが整いました。

母は私が悩むたび、心を見る事を伝えてくれました。しかし、もちろん私はその意味がわかりませんでした。

そして、私が再び自ら学びを始める出来事がありました。ちょうどその頃、母が今まで行っていたセミナーが終わりを迎えるということ

で、私もセミナーに誘われました。今まで「一緒に行こうよ」と母に誘われても、仕事を理由に断っていたましたが、結婚を機に仕事を辞めた私には時間に余裕ができ、初心者を対象に開かれたセミナーに母と父と一緒に参加することができました。

そこで、また、あの小学五年生の頃を感じた思いがこみ上げてきました。何だろう。あれだけ宿泊が嫌いだつた私なのに、セミナーの二泊三日は心地好い。ここに来たかつた。嬉しい懐かしい思い。頭ではわかりませんでした。不思議でした。しかし、喉の奥でぐつと飲みこむ苦しい思いもありました。出してはダメだ。素直になれない自分がいきました。

セミナー中、円の中で飛び跳ねたり、転がったり、走ったりする人達を見て、私はこうなりたくない。恥

ずかしい。ダメだダメだ。と頭で必死に何かを自分に言い聞かせていました。でも丹田呼吸をすると、わからないながらも涙が出そうになりました。不思議でした。

そして次第に私一人でもセミナーに参加するようになり、それから一気に私の中で思いが弾け飛びました。学びで知り合った仲間ができ、異語を出すことが心地良く感じだしました。言葉では表現ができない程の思いがこみ上げてきて、いつの間にか飛び跳ねている自分にも驚きません。そして今では恥ずかしさはありません。

自分で自分を抑えつけるのをやめた時、意識の喜びを感じました。今ではもうセミナーでは、できるだけ頭は使わないようにしています。

この頃、母はよく私に私が登校拒

否になつてくれたから、この学びに出会えたと言っていますが、私も母が長い年月の間、学び続けてくれていたから、私も再びこの学びに集えたのだと思い、嬉しいです。今では自分の子供も一緒にUTA会の同窓会に参加しています。本当に嬉しいです。

やっと苦しい自分に気づくことができました。小学五年生に吹き出た不安、恐怖、寂しさは全て自分でした。

今も学びながら肉どつぷりの生活をしていて、同窓会に集うたびに「ああ、私はまた肉中心だった。間違っていた」と思い知らされるけど、嬉しいです。

闇が現象化されています。今まで心を見ずに、ただ恐れていたけれど、今は自分でその闇を母親のぬくもり

で包んであげるんだという事を田池先生に教えて頂き、肉ではまだまだ怖いけれど、意識は喜んでる事を感じます。

まだまだちっぽけな私だけれど、意識が次元移行を求めているのを感じます。

二五〇年後、アルバートや皆様方に出会える意識であるように、何度肉を持つて生まれ変わっても、またこうして出会えるように、今深く意識に刻み込んで行きたいと思いません。

この手記を書く機会を与えて下さり、ありがとうございます。



## ▼病気になるって思うこと

神奈川県 早坂克浩

私は五年前に働いていて、些細なミス等が多くなり、次第に、自分は駄目な人間だと思いきみ自殺も考えだしたり、精神がおかしくなりだしました。病院に行つてカウンセリングをしていると、すぐに、仕事より休む事を言われ、会社に言うとなぐに休職になり、その頃、『意識の流れ』の本をゆつくり読む時間が出来、セミナーも必ず行きだしました。

一時はこれしかないと思いましたが、一時的の感じだったのでしょいか、セミナーが最後になるあと一回残して家で突然倒れ、体が動かなくなりました。

脳梗塞でした。気がついた時は、

病院のベッドの上でした。毎日点滴でしたが、病院で不思議な体験をしました。私の部屋は三階の窓際でした。カーテンを開けると窓の外を看護婦さんの姿をした人が上に上がつて行つたのです。たしか窓の外には階段もなかったと思います。また、窓全体に大きな男の顔をよく見るようになり、もうひとつは寝ていると私のもを誰かに握られたのですが、となりの人も絶対手が届く距離でもないし、ほかにも誰もいませんでした。私は声とか聞こえたりはしませんが、何か感じると体が振動しだすようになりました。

鬱の薬のせいかと、医師は薬の量

で治そうとするのですが、飲むと逆に不安定になったりしました。薬等でも治ると思いますが、自分の心を見ていくようにしだしてから、少し

ずつ何か変わりだしたと私は思っています。でも、まだまだ本当の自分に会っていません。本当に難しい学びです。

何回もこんな学びと思いつつも、もしこれに集えなかったら、どうなったかとよく考えます。また病気になるなければ、肉肉の喜びやら苦しみやらで、今頃、死んでいたかもしれません。

## ▼私の体験談

大阪府 金銅 優

## ●自分は何者か「私」

私は先生が在職中の頃から学ばせて頂いた一人です。この学びが、人類史上初めてで、最終のものである事を当時は考えもしてませんでした。

大阪弁で楽しく、面白く語られるのが一番大好きでした。人間的にも、先生のお宅へ行かれた方であれば、それはお分かりになられた事だと思います。字数の関係から要点だけを述べさせて頂きます。あるセミナーの反省の時間に、自分は何者であるかを、心で知る事ができたのです。

エーと思う間もなく、瞬時に、日常自分が使っている思い、心について反省をさせられました(例えば人を見下げる等)。すると涙があふれてきます。同時に鼻汁が出て来ます。その汁は、牛のよだれどころではありません。伸ばせば1mでも伸びます。そして自分が自分に頭を下げる事になります(『愛と死の真実』157頁)。「私は、あなた様に、つばをはき、シヨンベンかけて、くそかけて、け飛ばしてきました。その

ような私を、あなた様は許して下さいのですか、申し訳ございませんでした。ありがとうございます」、このくり返しでした。先生が退出された時から、入室される迄ずっと続きました。自分に対する懺悔は、その喜びは、表現できない程の喜びでした。持っていたタオルは、終わった時、絞れる程の状態で、まあどこからこんなに大量の鼻汁が出たものだと感心した位です。(後略)

先生は第四回UTA会セミナーで、私が話をして、百人いれば百人、七百人いれば七百人、全部受け方が違うとお話しされました。私は、ここに記した事を詳細に述べるのは初めてです。先生には、次に記す、地獄の件について、お話をした時に、どうして私がそのような体験をしたのか、質問しました。なぜなら、当

時のチャネラーの方々は、当然そのような体験はされたから、チャネラーになられたと思っていたからです。

答は、先日の通りいつも皆さんが心で感じるよう、講話をされていて、何かを感じた人、何も感じない人、十人十色ということで、あなたは、それを感じたのだから、それを信じて行けばいいという事です。この学びは、感じたものを信じて行く学びですから、それでよかったのです。自分だけで喜んでいればよかったのです。「私」に出会えれば涙だけでは終わりません。必ずや鼻汁もドンドン出て来ると思います。先生が何度も銭形平次を見て……と何度も聞いて参りました。(後略)



## ●地獄の底の底からの

## 自分との出会い

私は、ある大病にて十四年九月セミナーに行けない状態で、先生の本が出て、やっと最終の下呂セミナーから今日まで十三回参加させて頂きました。『核からのメッセージ』162頁が平成十七年十一月一日、平成十七年十二月二日にまず二回体験しました。眠っていると、左胸当り、心臓が四、五回ドキドキして、何やらワーツと脅かしがきました。ビククリして起き、アルバートって云っております。その時は、それで治まりました。『意識の流れ』の本も、『核からのメッセージ』も相当読んでおりましたが、自己供養はどのようにすれば良いのか、途中、学びのストップがある私には、さっ

ぱり分からない状態で、学んだ事や自分の感じた事、意識である事、皆もう肉はありません等々の思いでの供養はしていました。平成十八年十一月に市民検診で、大腸の再検査の通知があり、内視鏡で検査を受け、出た結果は、横行結腸ガンである事が判明しました。十二月のセミナー参加は、日数的に無理だと考え、久保さんにキャンセルをお願いしました。

十一月二十一日に手術をして、殆ど眠っていないし、ICUに入れず、六人部屋であろう個室に入っていました。二日目の事でした。息は苦ししいし、もう一度麻酔を打ってほしい程の苦しさの中で、昼間目を閉じると、何とした事か、爪先から、しびれを伴って、血液が頭上に激流のごとく昇ってくるのです。それは一秒

位でした。その恐怖は、今迄一度も体験した事のない、今から殺されるのを知っている心の状態を超える、空恐ろしいとしか表現できない程の恐怖と考えて下さい。目を開けると「ピタツ」と消えます。夜中の一人部屋での一人、病院の夜中は中々気持ちのいいものではありませんでした。意識の学びをしていなければ、何ともない事でしょう。私の義母もこの病院で亡くなっているし、私は多くの方々が亡くなられた、その方々にも、学びでの思いを伝えました。肉でできる事は、自分なりに全てやりました。生きるか、死ぬか、狂うのか、の状態だからもう必死でやり続けました。

やがて夕方、妻が来てくれましたが、目を閉じると、先述の通り全く同様の状況で、何の変化もありません

ん。何回しても目を開けるとスーと消えるのです。学びの苦手な妻に、今の心の状況を話してもどうにもならない。あまりの恐怖に脅えながら、妻を二十三時三十分迄そばにおきましました。自分で決心するしか道はありません。ありがとう、遅くまですまんかったと云って帰りました。そしてその時が来たのです。

目を閉じました。爪先から昇ってくる、その恐怖の激流は、一秒もかからないので、「もう狂う」「頭がパンクする」と思った一瞬に私は、「私」に全てを託したと心で思いました。何とした事でしょう。あの恐怖は、スーッと消え行ったのです。この時アルバートに心の針が合ったのでしよう（『母なる宇宙とともにⅡ』⑦参照）。肉では何もできない事を知る事ができました（『核からのメッセー

ジV』162〜169参照）。何ともすごい体験をさせてもらいました。

本当の自分を知っていなければ、託せなかったと思つています。先生がいつも「死ぬ程の覚悟で」とよくお話しされます。肉で生きるなら、学びを知らない方がいい事もあるでしょうが、人類が公平に天変地異に出逢う事になる事実が、核さんによつて明らかにされた以上、私達は本当にすごい勉強を、田池留吉先生から、学んでいる事になります。先生は、久し振りに、瞑想会で、まさに神、三月では、神、神の子と語られました。なつかしい言葉でした。嬉しい言葉でした。皆さんは、偉大なんですよ！ パワーを求めなくても素晴らしい存在なんですよ！と云われました。

私は、チャネラーでもないし、一

歩でも前進を今世できればと思つています。

- ・先生ありがとうございます。
- ・塩川さんありがとうございます。
- ・そして、お母さんありがとう。
- ・又、皆さんありがとうございます。

学ばれている方々に、一人でも私のような奴もいると思われて、勉強して頂ければと思います。

#### ▼私の体験談

東京都 與口 博

●私の初歩的なつまずき。心の中で整理してなかった為、自分からこぼこ道を作つて歩んでいました。今の状態で書きます。

【自己供養】

闇を受け入れるということは、闇を認めるといふことなのです。暖かい思いになったとき、闇が出てきてくれます。

また、闇が出てきたとき、暖かい思いで包む事があります。

そのとき、出てきた闇をぬくもりで包んだら、闇を心から放す事が大事でした。

闇を肉の自分の心から放してあげないと、温もりへ帰れません。

私は自分の中に受け入れるとばかり、しつかり掴んでいました。

延々と苦しい状態でした。喜びに変わりませんでした。

肉の自分に受け入れるのではなく、温もりに戻してあげる事でした。放したらスーと帰ってくれました。そ

して次の闇が来ているのにも気付く事が出来ました。

自分の肉に受け入れようとしていたため、まるで帰って貰う事が出来なく、苦しかったです。認めたら、温もりを思つて、闇にバイバイしていきます。

とても、初歩的なミスでしたが、私の他にもいるかなと思ひ、書きました。

よろしく願ひします。

【手記】

長い間分かりませんでした。両親と暮らしていたのですが、父が亡くなり、その一年後、母が亡くなりました。父が亡くなった時には、長男は相続して貰っているから、もう要らないと言つてました。母も亡くな

ると、兄弟に音頭をとり、「今まで両親と一緒に住んでいたのだから、私一人に良い思いをさせることない」と、今住んでいるのに「出て行け。借地権を売ればお金になる。売れるまで家賃代わりにお金を出せ」と言う始末。怒りに燃えて、自分が自分でなくなり、心が壊れそうになり、怒りのため、もう駄目、自分の心が壊れると思つた瞬間、そんな思いがいつぺんに吹き飛んで、暖かい暖かい、こんな暖かい思い。怒つていても、心が萎えていても、良いよつて、すべて暖かい思いで包まれました。

この学びを、やっつけて「これがお母さんの温もりなのだ」と思ひました。二十数年前の思いが鮮明に今もあります。

## ▼学びに出会って思うこと

奈良県 高橋謙一郎

一昨年妻が肺がんで入院したとき、これはきつと学びで伝えていただいてる愛の天変地異だと思いましたが。これを絶好の、そして最後のチャンスと捉えて理屈を超えた実践の場と心得て、徐々に受け入れていこうと思うようになりました。

すると、寂しい意識、空しい意識、悲しい意識が三日間心の中から吹き上がり続けてきました。もうこれ以上妻に対し偽善の奉仕をするのは嫌だという思いが、ヘドロのような波動となつてどんどん出てきました。が、肉は直面する現実には引きずられる形で、対外的に処理していききました。矛盾する心を心で確認しながら

も、押し込めていきました。

天変地異は、私が頭を重視して肉の土台で心を見る間違いに気づくように、私が呼び寄せたものだとはつきりと認めました。

更に、転生は何故起きるのか？

の問いかけにも、「自分が汚した心の修正の為生まれてくる」「真実に出会いたい心が次の転生を起こしていく」「人類すべての真実に帰りたい心が転生を起こしていく時期に来ている」のように思えてきました。

抗がん剤や放射線治療が妻の正常な肉細胞をも悪化させる中で、入院退院を繰り返してきました。長男夫婦が懸命に手助けしようとしましたが、やがてその限界が来てからは、毎日妻の求める品を持っていく私の病院通いが続きました。

病院は毎日のように死人がありま

すので、病院から私が帰るとき、体にならずと重く感じて歩きにくいのです。私がそれまで積み重ねてきた想念、想念が病院内の苦しい波動と相通して浮かび上がり、救ってくださいと訴えてきていました。その自分の過去世に、「田池留吉著『意識の流れ―アルバートとともに』が伝えている真実とは人間は……」と心の中で伝えていましたら、翌朝には心も体も軽く感じられて爽快感がありました。本当に貴重な心の勉強をする機会を頂いていると感謝しました。

昨年七月末に退院し十月七日に死亡するまで、妻の希望通り自宅で介護保険の介護を受けていました。死亡の前日、看護師さんが来て、痰が喉に詰まったら死んでしまうからと言って吸引機の使い方を教えて、機

械を置いて帰りました。私は医療知識が殆ど無く、これが延命治療なのかどうかも分からぬまま、自己選択・自己責任の絶対絶命の環境を頂いたのです。私の田池留吉に対する信を問われた訳です。

その時、妻が痰を吐こうとしましたが、自力では痰を吐き出せませんが、頭が固まってしまって、慌てて吸引機の管を妻の喉に入れて、電源を入れてしまいました。アルバートに心が瞬時に向いていませんでした。妻は肉は衰えても意識はしっかり私の心を感じていたと思います。私が心ならずも吸引機を使って、妻の命を救っていいこうとしたことを感じて、ニコっと笑顔を見せました。そして、翌日、近所の医師と介護の看護士二名と私の四人が見ている中、死亡が確認されました。妻の意

識が肉からすぽんと抜けるのを感じましたので、私は心の中で妻に話しかけました。「あなたは死んだのですよ。もう、肉は無いのですよ。体をつねってごらん。どこも痛くないでしょう。意識だけに戻ったのですよ。肺がんは関係ありませんよ」と。

葬儀は、長男夫婦・三男夫婦と私の五人だけで、簡単に総費用十八万円で終わりました。公私にわたる届けや申請が一段落した頃、心の中から「あなたのこれまで出してきた思いは全部間違いです。肉の思いと肉基盤の思いです。早くスタートからやり直してください」と伝わってきました。そして、寂しさ、空しさ、悲しみ、怒りが吹き上がってきました。私の心の現実に直面しました。それを確認させていただきました。私の学びのお粗末な、崩れ去った砂

上の楼閣の歩みを振り返り、お母さんの反省から始めさせていたいています。本当に何も分かっていませんでした。アルバート、申し訳ありません。私は愚かで愚かで大馬鹿者でした。この気づきを頂き、ありがとうございます。

やっと出発点に立てたことを喜んで歩んでいきます。



## ■自然治癒力の体験談

### ▼自然癒治療力について

奈良県 寺西喜美子

私の肉はととてもとても、うつ病には成れない者でしたが、この学びをして、どれほどの間違いだらけの心に向けていたのか、はかりしれませんでした。他力をしっかりと入れていたからです。私ほど、この学びを入ったり、出たりした者は無いと自負しています。

裏切り通しました。逃げまくりました。避け通していました。

逃げて、逃げて、引っ張ってくれていたのは母でした。母と夫とそして認めたくなかった兄嫁とで、引っ張ってくれていました。

私はこの学びを逃げていたのでした。認めたくない命をはってでも逃げました。田池留吉を、塩川香世さんを嫌って、嫌っていました。絶対に認めてなるものかと思いついてきました。私の中の他力が認めようとはしなかったから、心が拒絶していたから、逆らっていたから、駄目でした。心に意識に拒絶していました。田池留吉、塩川香世さんを絶対に認めてなるものかと、どれだけエネルギーを出していたかは、はかりしれません。逃げ回りました。避け通していました。やっとこの良さが少しずつでも、分かってきました。母が必死でどれだけ

の心で私をこの学びに、導いてくれていたか、はかりしていません。長きにわたって、何万回かの心で導いてくれていました。私は自分の力

では全く生きようとはしていませんでした。あらゆるものに、<sup>すが</sup>縋り付きました。他力しかない人生でした。多くの人から、愛されていました。許されていました。

導いてくれました。逃げようとしていた私をこの学びに導いてくれていました。昔、田池先生が、欲で学んでいけば、危険と言われていたから、避け通していました。一番大嫌いな人が、導いてくれました。やっとです。おかげで、このアルバートの道を歩んでいきます。他力での学びをしていたから、間違っていたから、肉一杯だから、間違っていたから、肉一杯だから、間違っていたから、長きにわたって、うつ病をしています。まだしっかりとした正しい知識も無い様な状態です。すから、まずは正しい知識を入れることからしています。何も分かって

いないです。母から夫から導かれて  
いました。ありがとうございます。  
学べる事が嬉しいです。なかなかで  
すが、避けていた分、嬉しさが違  
います。ありがたいです。逃げてい  
から嬉しいです。

母に田池留吉にありがとう。よく  
諦めずに引つ張つてくれました。

母をどれだけの闇の心で殺しま  
くっていたか分からないです。

どれだけのエネルギーで母を地獄  
に叩き込み、母から田池留吉を感じ  
させなくしていたのは、私の闇のエ  
ネルギーからでした。

母が田池留吉を学んでいる事す  
ら、嫌いまくり、嫌っていくように  
させていきました。だから、母には  
絶対に、田池留吉の波動を感じさせ  
ないように仕向けていたのは、私の  
他力でした。闇の心でした。

母がこの学びを嫌がったら、私も  
しなくて良いとして、意地悪ばかり  
していました。感じさせないように  
していました。闇しか感じさせない  
ようにしていました。苦しい心のみ  
を感じさせて諦めさせていました。

でも母は、私よりはるかにこの学び  
しかない人でした。だから一秒も惜  
しんで真面目に、真面目にしていま

した。それすらも邪魔したかったの  
でした。どけだけのエネルギーで苦  
しめ続けていたか分かりません。一  
杯、一杯させていました。病気のデ  
パートをさせていました。私の心が  
させていました。「求めるな、求めな

いでくれ」と叫んでいました。「お前  
が求めたら、私も求めなあかんやん  
か」として、止めさせることばかり  
していました。狂って、狂って行き  
ました。小さい時から自殺ばかり考

えていました。そうとしか思えませ  
ん。生きたくない、思っていました。  
嫌でした。全部嫌でした。

何が何でも嫌しかない人生でし  
た。怒りまくっていた人生でした。  
怒りしかない人生でした。皆にばい  
菌の様に闇の心を出しまくっていま  
した。いつも、いつも怒ることしか  
考えていない人生でした。

だから私の周りの人がかえって不  
思議でした。どうして怒らないのと  
不思議でした。訳が分からないとずっ  
と、ずっと観察のみしていました。  
絶対に皆のように成れないとして、  
諦めていました。

私にはないと諦めていました。無  
理と決め付けていました。嫌でした。  
心を変えていくなんで、絶対に嫌で  
した。このままにさせてと叫んでい  
ました。私は楽な人生しか求めてい

ないと決めていましたから、この学びは絶対に嫌い続けていました。避けても、避けても襲ってくる母の愛のエルネギーでした。どこにそんなに求められるのと不思議でした。母の頑張りが不思議でした。私には無いと決め付けて、自分に諦めさせていました。その方が楽だからです。

しなくていいと決め付けていました。だから母を恨んでいました。生んだ母を恨んでいました。生まなかつたら良かったのに嫌い続けていました。生まれた事すら嫌っていました。

恨み続けてきました。ごめんなきい。今やっと生んでくれて、ありがとうが、思えるように成り掛けています。私の闇と共に他力の心と共に、この学びをしていきます。

これからのスタートです。まずは

正しい知識です。

私もやっと二五〇年後にニューヨークに行きたくなりました。

母は田池先生から教えてもらってから、ずっとずっと思っていた。掃除婦でもなんでもいいから、田池先生のそばに行きたいとよく言っていました。私は無理と決め付けて、思っていませんでした。

心が求めています。今なら何とかして行きたくなりました。

これが現実の私の心です。肉と意識は、ばらばらな私です。意識についていけないのが私です。でも嬉しいです。母から夫から、嬉しさを教えてくれました。一杯の闇と共に、長きにわたってしてきたことを振り返っていきます。田池先生ありがとう。香世さんもありがとう。

これから先を楽しみながら出来た

らと思いつながら、今までの不真面目さを変えていきます。真面目に心を見ていきます。長い間、苦しんで来ましたから、もう苦しみからは、卒業していききたいです。苦しみは愛でした。大切な言葉です。

やっと嬉しさを学んでいます。嬉しいです。長きにわたり避けたから嬉しさが一杯あります。

母が夫が、兄嫁さんが導いてくれました。嬉しさを書いて、嬉しいです。先生長いこと、忘れていました。ご免なさい。やっとでました。やっと認めていけます。私の闇を認めていけます。嬉しさを認めていけます。長い間ご免なさい。母に申し訳ないことばかりしました。許して下さい。本当によく引っ張ってくれました。

避けても避けても、引っ張ってく



れていました。地獄に落としても、許してくれていました。母の愛は凄いです。あれだけの、愛は有りません。私には理解が出来ませんでした。許してください。待つて、待つてくれたのは、母、田池留吉、塩川香世さんです。ありがとうございます。夫にもありがとうございます。兄嫁さんにもありがとうございます。皆が愛でした。心と肉はばらばらな関係だから、何一つとして、反省はしていません。母の温もりも知らない様な、立場です。真面目にしていくしかないです。不真面目なことのみしてました。誠美でもない、嘘ばかりしかかない人生でした。心は裏腹な事ばかりの人生でした。苦しかったです。認めていきます。

大闇ということを知り、認めていきます。そして、変えていきます。

アルバートに会えることを信じていきます。待たれていることが嬉しいです。自分をないがしろにしてみました。馬鹿にしてみました。

一杯の心です。大闇の心を認めていくことをしていきます。先ずは知ること。正しい知識を心に植えつけていくことです。頭にも植え付けていきます。ありがとうございます。平成二十二年十月十八日です。

うつ病は治っています。

### ▼私は自然治癒力の凄い力で

今は生かされていると思います

大阪府 満尾徳二

自然治癒力は田池留吉、アルバートの温もりです。波動は見えませんが、しかし大きなエネルギーを発揮しま

す。田池留吉、アルバートは、自然治癒力です。野に生きる動植物など病も怪我也自然に自分で治して生きています。

私は過去に南方戦線で通信兵として高い電柱にて作業中、一トン爆弾で電柱から落とされ瞬間に電柱にしがみつきました。そのすべりで胸は肉の皮が十五センチ平方はがれ、白く肉が飛び出し血液がにじみ出ました。しかし当時の軍隊の厳しき、大きな目玉を食らって眼から火が飛び出るくらい殴られる時代、咄嗟とっさに持っていたチリ紙で胸の大傷を覆いました。そのまま一滴の薬も使わず二週間くらいで、上官の知ることなく完全に治ってしまいました。軍隊では多少の傷など自然治癒力で治し戦ってきました。

古い例で済みません。今思うと自

然治療力、アルバートって凄いなあ  
と思います。そして今は人も嫌悪す  
る脳梗塞を患い、いつ急に発症し死  
に至るか分からない不安な身です。

この病には直接効く薬はなく、私  
はただ血流の薬だけ、気持ちで生命  
を維持しています。医者も薬も手当  
ては必要です。今は田池留吉、アル  
バート、自然治療力の温もりで健康  
維持しています。自然治療力は、田  
池留吉、アルバートです。健康で心  
次第です。

実は脳梗塞発症の時は完全に意識  
を失って何にも覚えていません。気  
付きが早かったので助かったと皆言  
いますが、これこそアルバート、自  
然治療力が働いたからでした。最初  
に駆けつけた病院は完全な脳梗塞で  
すと云いながら、薬など一切無くて

大事にしなさいというだけでした。

脳の病気は不安で別の病院を探しま  
した。ところが戴くのは血流の薬だ  
けで何とか安泰しました。血流の試  
薬だけで直接効果でなく試薬で今の  
状態です。これも私に自然治療力、  
アルバートがなかったら有り得ない  
ことです。今まで自然治療力を軽視  
し振り向くことさえなかった私です。  
でも、これだけ医者の前でふらつき、  
入退院を繰り返した私でも、セミナー  
まで行ける、大変な喜びです。一時  
は家族が葬式まで考えた脳の病気で  
す。死線までさ迷った私も今では喜  
びで駆け回っています。医者も看護  
師も驚くほど回復したのに驚いてい  
ます。自然治療力も田池留吉、アル  
バート有難うございました。

▼私の体験談

茨城県 村山健治

二〇〇七年七月セミナーから帰っ  
て、いくらか経ってない十一日。三  
日ばかり少々下痢気味だったので。  
気楽に、近くのクリニックで診ても  
らったところ、念のため内臓を検査  
してみましようということになって、  
結果的には、肺のレントゲンから始  
まって胃カメラから、大腸検査まで  
やられることになった。

そして順調に検査は進んだが、最  
後の大腸検査で検査している先生方  
の顔色や態度が一変した。そして、  
十九日紹介していただいた専門病院  
で検査を受けることになったが、結  
果は即入院、明日でもと言われたが、

これも流れの一つかなと思って、妻に、『意識の流れ』と『母なる宇宙とともにI・II』それとホームページに当時は三つしか無かった、正しい瞑想(1)、(1-2)、(1-3)をテープに取って持ってきてくれるよう頼んで、そのまま入院した。

生まれて初めての入院、自分に向けられる周囲の雰囲気尋常でないのが病状を示しているので、ひよとすると死か、または満足な身体でこの病院を出られないかも知れないと思っていた。

ノートに遺書めいたものも書いた。しかし、出てくる思いはそんなに重苦しいものではなかった。むしろ、普段はお目にかかれない、思いを楽しんで？いたように思う。検査

詰めの日々、そしていよいよ手術が迫ってきた夜半、ベットのうえで、瞑想の(1)のテープを聴いて、瞑想に入ろうかなと思つたとき、「母なる宇宙とともに(1)」の18だったと思います。憎いのは癌ですか、(正確ではありません)という思いがバーッと出て来たんです。癌細胞に思いを

向けたら、癌細胞って自分なんですよ。それ、冷たい僕に八十年間一生懸命、それを知らせてくれていたんだ、それも命懸けで、サラッと責めるでもなし、恩に着せるでもなし、明日切り捨てられるのに(これが優しいって思いなんだなって、今まで優しさって、どんなものかわからなかった)本当に、嬉しいって思いが出てきた。嬉しい思いを持ったまま、お母さんの瞑想をはじめようと、お乳を飲んでいたときの自分に思いを

向けた時、フーツと大きく広くなって、真っ白になって、なーんにも無くなってしまうた。(言葉で肉で表現しようがないんです)苦しみも喜びもなーんにもなし、あるのはただ温もりと広がりだけ、これが田池留吉と出会えるってことなのか、なんて思うのはズーツと後のこと。爆発ってそうなんですよね。中から苦しみから喜びから何でもかんでも、涙と嗚咽も交えて飛び出してきたんです。それをどこかで見ている自分もあるんです。外から見たら、手術が怖くて人目しので、怖さを押し殺して、泣いているように見えるだろうなって見ている自分もありました。

それからの自分の中から出てくる思いっていうのかな、恐怖とか不安そんな苦しみのような思いが出てこ

ないっていうのか、なくなったとい  
うのか、悪い表現だがケセラセラ。  
手術の最中も全身麻酔で何にも分  
らないはずなのに、コールタール  
のような真つ黒ネトネトの中で苦し  
んでいる地獄の住人の自分にも出会  
えようと思えるし、翌朝、集中治療  
室を出るときでも、一人で点滴の支  
柱を頼りに歩いて病室のベットへ帰  
り、八月十九日の退院になったが、  
一番の壁は抗癌剤を辞退するときが  
勇気がいった。医者は抗癌剤なしで  
は責任が負えない、二〜三年が……  
と言うし、自分の中では、抗癌剤拒  
否は自殺になるのかな？なんて思い  
も出てくるし、でも、まだ頑張っ  
てくれる元気な細胞まで殺すこと  
のほうが冷たいのではないかと、全責  
任は私がとりますと、最後ははっき  
りとお断りしました。そのためか、

退院後は一度だけ病院へ行っただけ、  
病気前と変わりなく生かされていま  
す。癌、癌って世間は騒ぐが、何で  
あんなに騒ぐのかなって、死が怖い  
とあなるのかな、末期癌なんてい  
うと顔色変えているが、この勉強やっ  
ていると、他のことでも、癌でも癌  
は癌だけでそれ以上でもそれ以下で  
もないってことが分かるから苦しみ  
はないのかな。と思っています。そ  
れにしても、驚くほど病気の位置  
レベル（4）、時期、そして勉強の資  
料、環境、波の高さっていうのかな、  
自分が超えられる大きさまで、すべ  
て整っていました。

僕にとっては天変地異でした。で  
も、その優しさが身にしみました。  
本当の天変地異に出会ったとしても、  
そのときタイケトメキチに向けるこ

とができれば、もう、呪いはおろか、  
嘆きも苦しみもない、あるのは喜び  
だけらしいと思えます。ただ、あの  
ベットでの広がり握ってしまつて、  
三年間苦しみました。「もう一度、もっ  
と」と、偉い己に振り回されました。  
お母さんの反省、他力の反省をしっ  
かりして意識の転回、自己の確立が  
なされないままでは、また地獄の住  
民に逆戻りするしかないと思ってい  
ます。肉ですが、後から思うに病  
院の選択から始まつて抗癌剤の辞退  
まで、事あるごとに出てきた思いの  
中にタイケトメキチがあり、それが  
支えになっていたことは否定できま  
せん。ありがたいことに、今まだセ  
ミナーがあります。示されたことを、  
しつかり実行して、結果は三百年後  
だと思っています。ありがとうございます  
いました。

## ▼私の体験談

奈良県 高橋謙一郎

福島県のセミナー終了後、郡山駅前の大阪行き長距離バスに乗り込もうとして、私は目まいを感じながら自分の座席に座った途端、脳梗塞で意識不明に陥りました。再び意識が戻ったときは、運転手が呼んだ救急車が前に停まっていました。私は妻とともに救急車で病院に搬送され、私が廊下で点滴を受けている間に妻が医師に事情を説明していました。結局、保険証もお金もなかったため、入院せずに裏門まで医師と看護婦が私の両脇を抱えて、外に出してくれました。病院の隣のホテルで一泊して翌日新幹線で新大阪まで帰り、タクシーで家に着いたときには金が足

りず、妻がタクシー代を家に取りに行って払いました。この時もまだ私は言葉がしゃべれず、右手右足も使えず、左手・左足と傘で歩いていました。

郡山の病院で点滴中に、この病気は私に何に気づけと伝えてくれているのかと心を見ていましたら、白虎隊の意識達を供養する積もりで飯盛山の近くまで行きながら、急にこわくなって逃げた、私の冷たい心、過去世で切腹した私の苦しい意識を供養する絶好の機会を逃し本当に申し訳なかったと思いました。

また日頃、妻の出す思いに対し批判的だった私の心の間違いに気づかせていただきました。妻がいなかったら、己偉い心に気づけなかったと思います。妻を、この三次元の妻としてではなく、教材として大切に

していこうと思いました。

その後のセミナーも欠かさず参加させて頂きましたが、ろれつが回らないことを隠しとおしておりました。

左膝関節痛で、中国針の治療院へ行きましたが、その仏教的他力の頼らせるエネルギーに気づかせていただきましたので、自分の頼る心を見つめて、その自分を供養するともに通院を止めました。そして、痛みを自分の過去世が苦しみを訴えてきているのだと受け入れていくように気持ち切り替えていきました。

また、杖に頼る心は次第に押し車に頼り、車椅子に頼る心へと甘えを膨らませていくを感じて、なるべく杖を使わないようにしました。

また、一時、病院でもヒヤルロンの注射や点滴をしてもらったこ

ともありますが、それも止めて、自分が敏感になってきたことを喜んで痛みを受け入れていつています。自分に出会えたことを喜んで、肉體細胞に感謝して、痛みとともに歩んでいこうと思います。

その他、頰椎症、白内障、高血圧症なども同様ですので省略させていただきます。



#### 【体験談・感想文の募集】

UTA会では、この学びに出会って、田池留吉に出会って等の体験談（手記）やUTAブックから出版されている本を読んだの感想文などを募集しています。

また現在は、「自然治癒力」ということで、皆さまの病気を通してこの学びを実践された体験談も募集しています。

頂いた原稿は、このコーナーなどで皆さまに紹介していく予定です。

原稿は、下記UTA会の原稿受付専用メールアドレスまで、Eメール、またはEメールの添付として送っていただければ助かります。もちろん、郵送でも受け付けいたします。

#### 【メッセージの募集】

また、UTA会のホームページでも案内していますが、UTA会では毎回テーマを設け、日々の瞑想を通して皆様が受けたメッセージや、そのときの感想をお寄せいただき、同じくこのコーナーで発表していきたいと考えています。

現在のテーマは、UTA会のホームページでご確認ください。

文字数は1,000字前後で、お願いいたします。体験談や感想文と同じく、原稿受付専用メールアドレスまで、Eメールでお送りください。

たくさんのご応募、お待ちしております。

#### 【送り先】

原稿受付専用メールアドレス：info@utakai.net

郵送での宛先：〒819-1136 福岡県糸島市美咲が丘 2-5-1

UTA会 中村康一



## メッセージ

UTA会のホームページに掲載しています『私はあなた、あなたは私、ひとつ』のメッセージ、五一から六二までです。

五一、どうでしょうか。皆さん、私、田池留吉とともに、アルバートとともに歩みを進めていますか。

私のホームページをしっかりと活用していただけます。

なぜ、私がホームページを継続しているか、ホームページを活用すること、ということはどういうことなのか、それぞれに考えてみてください。

我流の学び方では、真実の道は見えません。それでも、心は何かを感じていくでしょう。しかし…と言わざるを得ません。

私達の思いは、同じ軌道の上で学んでいっていただきたいということ、です。そうすれば、何時の日にか、必ず、真実が見えてきます。

そういうことが、自分の心で分かってくるような学び方を、どうぞ、それぞれがそれぞれの場でしていただく。

五二、宇宙の風、読んでいただいていますでしょうか。

どうぞ、あなたも学びの方向をしっかりと見極めてみてください。

田池留吉、アルバートの指し示す方向を向いて、しっかりと学んでいきましょう。同じ軌道の上を歩いていただきたい、そのためにはどうすればいいのか、素直になることです。

真実を発信する世界、その波動の

世界を、どうぞ心で感じていただきます。

言葉ではありません。波動を伝えています。宇宙の風は波動です。

その風を感じ、あなたも宇宙に思いを馳せていきましょう。

五三、焦らずに、たゆまずに、真摯な思い、学びを進めていく上において、大切なポイントです。学びは進化していても、この基本は変わりません。

そして、なぜ自分は生まれてきたのか、何をするために生まれてきたのか、なぜ、今ここにいるのか、死んでいくとはどういうことなのか、そういうことに、きちんと心で応えることができるような学び方をする、その基本も変わりはありません。

宇宙、次元移行、すべては心で感じていく世界です。あなたの心が感じたものを信じていくこと、これもまた基本中の基本です。

そして、最大の基本は、私達は喜びの存在だということです。

**五四**、瞑想でしか、真実は分かりません。究極的には、正しい瞑想です。そして、それ以前に学びに集う動機の修正です。

これを自分で、しっかりと確認して、修正をしていかなければ、絶対に、真実の世界、学びの本質など分かるはずはないのです。

学びは進化しています。確かに、老いも若きも男も女も、誰でもが分かる世界かもしれません。

しかし、それは額面通りには受け

取れないと私は思っています。

本当に、真実の世界に入ってくるには、それ相当の準備と、気構えが、必要だと私には感じられます。

そして、それには、これからの時間、二五〇年、三〇〇年が必要なのです。

喜びの輪は、広がっていくかもしれません。

それは、それぞれの転生に繋いで下さいというメッセージを込めています。これから二五〇年に至る時間、想像をはるかに超えた厳しさ、険しさを感じます。

**五五**、今世、学びに集えた人達に、喜びの輪の裾野を広げていきたい、そして、それぞれの転生に心を繋いでいただきたい、もうそれだけです。

学びは磐石、意識の流れの計画は予定通り、だから、あとは、それだけを望んでいます。

しかし、それもまた自己選択の範疇です。

ぜひとも、何が何でもという思いはありません。

もうすでに喜びの発信は宇宙にしています。これからの時を経て、真実の道をまっしぐら、そういうことになっていきます。

**五六**、田池留吉、アルバートの宇宙よりメッセージです。

それぞれのエネルギーを心で感じること、セミナーでそのことに専念してください。エネルギーを感じるのです。それぞれの心に培ってきた



エネルギーを感じるのです。

頭を働かさずに、ただただ心に感じたものを、そうあなたの中に広げていってください。

宇宙は待っています。田池留吉、アルバートの宇宙は待っています。

母の優しい、優しい温もりの中に、すべての宇宙が帰ってくることを待っています。

小さな、小さな肉、その肉の中に埋もれていた意識、その意識の解放に、これから、どんどんどんどん努めていってください。

ただただ、思いを向けるのです。田池留吉、アルバートの宇宙に、そう優しい、優しい本当のあなたに思いを向けていくのです。

心に語ります。今、メッセージを送ります。

あなたは愛です、喜びです。宇宙

に広がる喜びのエネルギー、その喜びのエネルギーとともに、ともに味わってまいりましょう。

心の中に、安らぎを思い出してください。静かな宇宙、ただただ静かな、静かな、優しい、優しい、温もりのある宇宙が広がっていく、そんな中にあなたは存在していた、それを思い出していくのが、あなたこれからです。どうぞ、どうぞ、心を、田池留吉、アルバート、母なる宇宙へ思いを向けていってください。

私は、待っています。意識の私に心を向けるのです。そう、今、あなたが感じている安らぎの世界、そんなあなたを、私は、待っています。どうぞ、心を見ていってください。

五七、日々、瞑想を続けていますか。

結果を出していってください。あなたの心の中に、学びに触れ、学びをしてきたことに対する結果を出していってください。

焦ることも、もちろん比べることもなく全く必要ありませんが、自分に対して、誠実であってください。

学びを進めていけば、究極的には、自分と自分の学びであることが分かってきます。

自分には、自分の心で分かったことしか伝えられないのです。

そこで、自分に訊ねてください。自分に、いったい何を伝えるのでしょうか。何を伝えてきたのでしょうか。あるいは、何も伝えることなく、あなたは死んでいくのでしょうか。

五八、世の中は、今年、変革の年であっ

たようです。しかし、本当の意味での変革には、到底程遠いのです。いいえ、全く別物です。

意識の転回なくして、変革などできないのです。

そして、その意識を転回する術は、もう天変地異しかないと、すでにご承知だと思います。

その時を経なければ、いいえ、経たからといって、すべての意識が転回できるわけではありませんが、天変地異がただひとつ残された道です。それほど他力のエネルギー、肉を本物とする思いは非常に、非常に強いのです。

しかし、これもご承知のように、意識の流れは、厳然とあります。その流れは、粛々として遂行しています。宇宙とともに、遂行しています。

その意識の流れを心で感じるからこそが、自らの変革に繋がっていきま

す。変革と騒いでも、ほとんど何も変わらないのが人の世です。

それよりも、来年こそは、いいえ、たった今から、自分の変革に勤しんでいきましよう。

五九、私は、今、刊行本の「意識の流れ」を、もう一度、見出しを立てて、整理をしています。

初夏に発刊される予定のようですが、皆さん、もう一度よく読んでみてください。

すべて、あそこに書かれています。田池留吉のメッセージなど、すべてあの本に集約されています。

あとは、それぞれの実践です。

学びは進化しています。しかし、その進化の流れは、基礎をしっかりと固めることが肝要です。

私は、「意識の流れ」という本を、作業過程で、過去にも、そして今も、おそらく、皆さんよりは、数段心で読んでいると思います。

皆さんは、どうでしょうか。サラッと読み流してきたのではないのでしょうか。もう一度、原点に戻られることを希望します。

六〇、あなたは、田池留吉からのメッセージを聞いていますか。

それは、あなたに向けて、あなたが伝えているメッセージです。

それを、自分の学びのポイントにしていますか。

自分に真摯に誠実に、その実践を

していますか。

メッセージをまずひとつ聞いて、そしてそれを中心に自分の中で実践していく、そしてまた瞑想をして、そのことに対して、自分に自分が答えていく、それがメッセージという形で伝わってきます。

そのような学びの進め方をしていますか。

ひとつ聞いて、それを自分の中で、本当に実践ができたなら、田池留吉のメッセージは、大きな効果があります。

メッセージとはそういうものです。まずひとつを実践していきましよう。

六一、田池留吉のメッセージを受けるといことは、田池留吉を思っ

て瞑想を続けていってください、心を向けることをしてくださいということとです。

それを続けて、そしてUTA会に参加してください。

そして、あなたが家で瞑想を続けて、感じてきた波動の修正をしてください。

各自それぞれが、自分の波動の修正を学ぶのです。

メッセージの文言など、みんなどれも似たり寄ったりです。

家で自習してきたものを、セミナー会場で確認、あるいは、修正をして、そしてまた各自、家での自習をやっていく、学ぶ基本的な姿勢は、こうではないでしょうか。

そして、その姿勢は、何も今に始まったことではありません。

それを淡々とやってきたのかどう

なのか、そういうことではないでしょうか。

六二、瞑想をする時間を持つこと、これが最大の自分への優しさです。

お母さんを思い、田池留吉を思い、そして自分を思い、瞑想を続けていくこと、このことを伝えていただきたいことが、最大の幸せです。

自分に限りない優しさ、温もりを伝えていくことができる今を感じていってください。



## 《U T A会からのお知らせ》

### ● 「2011年度U T A会に継続を希望される方へのお知らせ」

2009年4月に発足したU T A会も、この3月末で2年目が終わろうとしています。皆様にはたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

少し早めではありますが、2011年度U T A会（2011年4月～2012年3月）へ継続して入会をご希望される方の受付を、2月21日（月）より開始させていただきます。締切は3月25日（金）です。

継続をご希望の方は、期間内に郵便局より2011年度年会費10,000円をお振込みください。振込先は下記の通りです。

会員番号につきましては、継続される方は今までと同じ番号です。また、お振り込みいただいた方には振込確認が出来次第、入金確認のメール、またはハガキをお送りいたします。

なお、少し早めに継続をお願いする理由としまして、4月には第6回U T A会の申込受付が始まりますので、受付処理上の混乱を避けるためです。何卒、よろしく願い申し上げます。

振込先（振込口座番号は、必ず確認をお願いいたします）

口座番号：01700-5-140092

加入者名：U T A会

### ● U T A会状況とお知らせ

1) 2010年度U T A会の1月20日現在の会員数は以下の通りです。

- ・正会員 897名（海外在住者23名含む）
- ・準会員 39名（海外在住者3名含む）

2) 2010年4月以降に会員に発送したもの、および寄贈したもの

4月 冊子「宇宙の風—宇宙からのメッセージ— 第1巻」

機関誌「U T A会だより第2号」

5月 本「意識の流れ 増補改訂版」田池留吉・塩川香世

図書館へ寄贈 本「意識の流れ 増補改訂版」800館分 800冊

6月 冊子「宇宙の風—宇宙からのメッセージ— 第2巻」

7月 冊子「Message from Taike Tomekichi」

8月 冊子「あなたの意識です 第1巻」

視聴覚障害者施設へ寄贈 音訳CD「意識の流れ 増補改訂版」100館分 100本

10月 冊子「あなたの意識です 第2巻」

11月 機関誌「U T A会だより第3号」

12月 図書館へ寄贈 本「続 意識の流れ 改訂版」1154館分 1154冊

視聴覚障害者施設へ寄贈 音訳CD「続 意識の流れ 改訂版」100館分 100本

2011年

1月 冊子「あなたの意識です 第3巻」

2月 機関誌「U T A会だより第4号」

### 3) 来年度の発行予定

2011年

機関誌「U T A会だより」年2回（5月、11月）

冊子 4冊（4月、8月、10月、翌年1月）

※ 以上を予定していますが、変更になる場合もあります。また、これ以外にも新刊本の図書館や視覚障害者施設への寄贈が予定されています。

### 4) 来年2011年度のU T A会の開催予定

来年度は、年4回の開催を予定しています。開催日時は、以下の通りです。

◆第6回U T A会	5月29日（日）～31日（火）／前日泊	5月28日（土）
	申込期間	4月18日（月）～5月9日（月）／キャンセル連絡日5月13日（金）
◆第7回U T A会	7月10日（日）～12日（火）／前日泊	7月9日（土）
	申込期間	6月1日（水）～6月20日（月）／キャンセル連絡日6月24日（金）
◆第8回U T A会	9月4日（日）～6日（火）／前日泊	9月3日（土）
	申込期間	7月25日（月）～8月15日（月）／キャンセル連絡日8月19日（金）
◆第9回U T A会	12月18日（日）～20日（火）／前日泊	12月17日（土）
	申込期間	11月7日（月）～11月28日（月）／キャンセル連絡日12月2日（金）

※ キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

### ● 次回のU T A会セミナーのご案内

1. 開催日時と場所（遠方から参加される方のために、前日泊も設けています）

#### ① 開催日程

◆第6回U T A会
2011年5月29日（日）～31日（火） 参加人数800名
2011年5月28日（土） 前日泊 参加人数300名
29日（日） 13:30～17:00（12:00開場）
席決めの抽選を12:45より行います。
30日（月） 10:00～17:00
31日（火） 10:00～12:00（会場は14:30まで使用できます）
【申込受付期間】 2011年4月18日（月）～5月9日（月）
【キャンセル連絡日】 2011年5月13日（金）

② 会場 琵琶湖グランドホテル

〒 520-0101 滋賀県大津市雄琴 6-5-1 / TEL 0775-79-2111

2. 参加申込日程と参加料金

申込日程		会員料金
前日泊	夕食・朝食付	10,500円
前日泊+全日程	3泊4日8食付	29,500円
前日泊+前半1泊	2泊3日5食付	20,000円
全日程	2泊3日6食付	19,000円
前半1泊/後半1泊	1泊2日3食付	9,500円

※ 初めて参加される方の参加料は、会員と同じです。但し、会員でない方のU T A会参加は、初回のみとさせていただきます。

※ 2011年度のU T A会では、2010年度の年会費の余剰分を皆様に還元させていただくため、第6回U T A会の参加料金を大人1泊9,500円とさせていただきます。

ただし、2010年度の年会費の余剰分がまだ確定しませんので、第7回目以降の参加料金に関しましては、決まり次第U T A会のホームページでご案内いたします。

また、還元の対象は大人の宿泊のみで、前日泊、お子様の料金は変わりません。

※ 小学生、幼児は別料金になりますので、ホームページをご参照ください。

※ 料金には、セミナー会場使用料も含まれています。

3. 申込方法について

① 申込期間内に、お近くの郵便局に備え付けの青い振替払込書にて、U T A会セミナー料金をお振り込みください。それで受付とさせていただきます。

② 振替払込書に、氏名、会員番号、申込日程を、必ず明記してください。布団、食事を必要としないお子様の名前、年齢も、必ず明記してください。

※ 複数名でお申し込みの場合は、それぞれの氏名、会員番号、申込日程を必ず明記してください。

※ 同室希望については、第3回U T A会より同室希望の受付条件を、病気の方や介護が必要な方とのお世話をされる方、また、小さなお子様のいるご家族の方のみに、変更させていただきました。

同室を希望される方は、お手数ですが同室希望の理由と、それぞれの氏名を、必ず明記してください。

但し、ホテルの部屋の都合上、ご希望に添えない場合がありますので、ご了承ください。

※ 初めて参加される場合は、振込払込書に、氏名、申込日程、住所、電話番号、性別、年齢、メールアドレスを明記してください。(性別、年齢等はU T A会の部屋割りに、メールアドレスは受付確認メールの送信に必要となります)

※ 交通機関のご都合等で、U T A会最終日に昼食が不要の方は、「食事不要」と振

込用紙に記載して下さるよう、お願いいたします。

- ③ 振込先（振込口座番号、入金金額は、必ず確認をお願いいたします）

口座番号：01700-5-140092

加入者名：U T A会

- ④ 入金の確認ができ次第、U T A会受付確認のメールを送信いたします。

なお、郵便振替払込書がこちらの手元に届くまでには4日間ほどかかりますので、確認メールの到着までには、一週間ほどお待ちください。また、メールアドレスをお持ちでない方へは、ハガキにてお知らせいたします。

#### 4. キャンセルについて

- ・キャンセル連絡日までのキャンセルはメールで、また、キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセルは、必ず次ページの電話番号まで連絡をお願いいたします。
- ・キャンセル連絡日までのキャンセル料は、無料です。
- ・キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセル料は、総額の100%です。
- ・U T A会当日にキャンセルされる場合でも、必ず電話連絡をお願いいたします。

#### 5. 参加についてのお願い

- ・参加のお申し込みは、必ず、期間内をお願いいたします。
- ・義務教育中のお子様の学校を休んでの参加、または幼児、小、中学生の保護者同伴なしでの参加は、ご遠慮ください。
- ・家族（夫、妻、舅、姑、子供…）に、U T A会への参加を反対されている人、または家族、職場に対して嘘をついて参加することは、ご遠慮ください。
- ・参加費用を借金してU T A会に参加することは、ご遠慮ください。
- ・ホテルや他の宿泊客に迷惑をかける人、またはU T A会の進行を妨げるような行動を取る人は、参加をご遠慮ください。
- ・参加者同士がトラブルを起こした場合、当事者間で解決が見られるまで、参加をご遠慮ください。
- ・セミナー期間中の個人的な物品の販売は、ご遠慮ください。

#### 6. セミナー会場の座席、および開場時間についてのお願い

毎回、セミナー会場での座席は抽選くじで決めさせていただいておりますが、最近、抽選くじで当たった番号以外で座る方や、友達同士で抽選くじ番号以外で纏まって座る方々がいるなど、参加者の方々から苦情が寄せられております。また、セミナー会場の椅子席が足りなくなる状況が出ています。そこで、セミナーに参加される皆様へのお願いです。

##### ① 座席について

セミナー会場での座席は、田池先生ご夫妻、塩川さん親子、U T A会責任者の久保夫妻の6人以外の方は、必ず、抽選くじを引いて、当たったご自分の番号でお座りください。友人等、他人の番号で座るのはおやめください。

また、家族で参加されている方は、抽選くじは家族で1枚引いていただき、その番号でお座りください。

なお、初参加の方の席は、こちらで「初参加者席」という紙を置いた席を用意しますので、そちらにお座りください。初参加者を紹介された方も一緒に座ってくださって結構です。

## ②椅子席について

毎回、足の悪い方、ご病気の方、高齢の方、初参加者のために、椅子席を用意しております。セミナーは床に座って受けていただくのが基本となっております。ご事情により、長時間、床に座るのが辛い方のための椅子席ですので、健康な方は抽選くじを引かれて、床に座ってご参加ください。

## ③セミナー会場の開場時間について

セミナー会場の開場は12時です。セミナーの準備等がありますので、開場時間前にセミナー会場に入るのはご遠慮ください。開場時間まで、ロビー等でお待ちください。

※ セミナーに参加されている方は、どなたも前へ座りたいというお気持ちは分かりませんが、抽選で座席を決めるというルールをお守りいただきたいと思います。

なお、抽選時間前にハンカチ等で座席を取られている場合、また、12時開場前に椅子席にハンカチ等で席を取られている場合は、ハンカチ等を撤去させていただきますので、予め、ご了承ください。

## 7. 会場ホテルへのアクセス

### ・電車をご利用の方

大阪・東京方面→JR京都駅→JR湖西線「おごと温泉駅」下車(JR京都駅より20分)  
→琵琶湖グランドホテル (JRおごと温泉駅よりホテルの送迎バスにて5分)

### ・自動車をご利用の方

大阪・東京方面→名神高速道路 京都東IC→西大津バイパス仰木雄琴IC→  
国道161号線→琵琶湖グランドホテル (仰木雄琴ICより2分)

### 【連絡先】

・お問い合わせは、UTA会サポートまでメールでお願いいたします。

メールアドレス：support@utakai.net

・キャンセル連絡日までの変更、及び、キャンセルは、上記UTA会サポートまでメールで、キャンセル連絡日を過ぎての変更、及び、キャンセルは、下記まで電話でご連絡ください。

幹事長 久保明子 TEL 042-771-9100

UTA会のホームページでもセミナーの案内等を掲載していますので、ぜひ、ご参照ください。

UTA会ホームページ：http://utakai.net/utakai/index.html

